



WWFジャパン森林セミナー木材編 木材デューデリジェンスとWWF林産物チェックリスト（改訂版）の活用法

第1部講演 「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

日時： 7月8日(木)
WWFジャパン 森林グループ
グループ長 相馬 真紀子



「サステナブル調達」を目指す木材DDとは 発表の流れ

- 世界の森林と求められるサステナブル調達
- 木材DDに使えるツール：WWF林産物チェックリスト
- 林産物チェックリストで確認できる項目と採点方法
- 林産物チェックリストの使い方：DD項目の確認手段
- Recommendations



「サステナブル調達」を目指す木材DDとは WWF（World Wide Fund for Nature）について

公益財団法人世界自然保護基金は、世界約100カ国で活動する環境保全団体（NGO）です。

1961年、絶滅のおそれのある野生生物を救うことからスタート。
その後、野生生物が生きる生態系（森、海、湿地）の保全、気候変動対策などにも拡大。

現在では「人と自然が調和して生きられる未来」のため、持続可能な生産と消費、認証制度の設立やその普及などにも力を入れています。



2004年から2017年までに、世界の24ヶ所で4300万ヘクタール
（日本の1.2倍に相当）の森林が消失

■ 森林（2018年）
■ 森林破壊の最前線

ラテンアメリカ

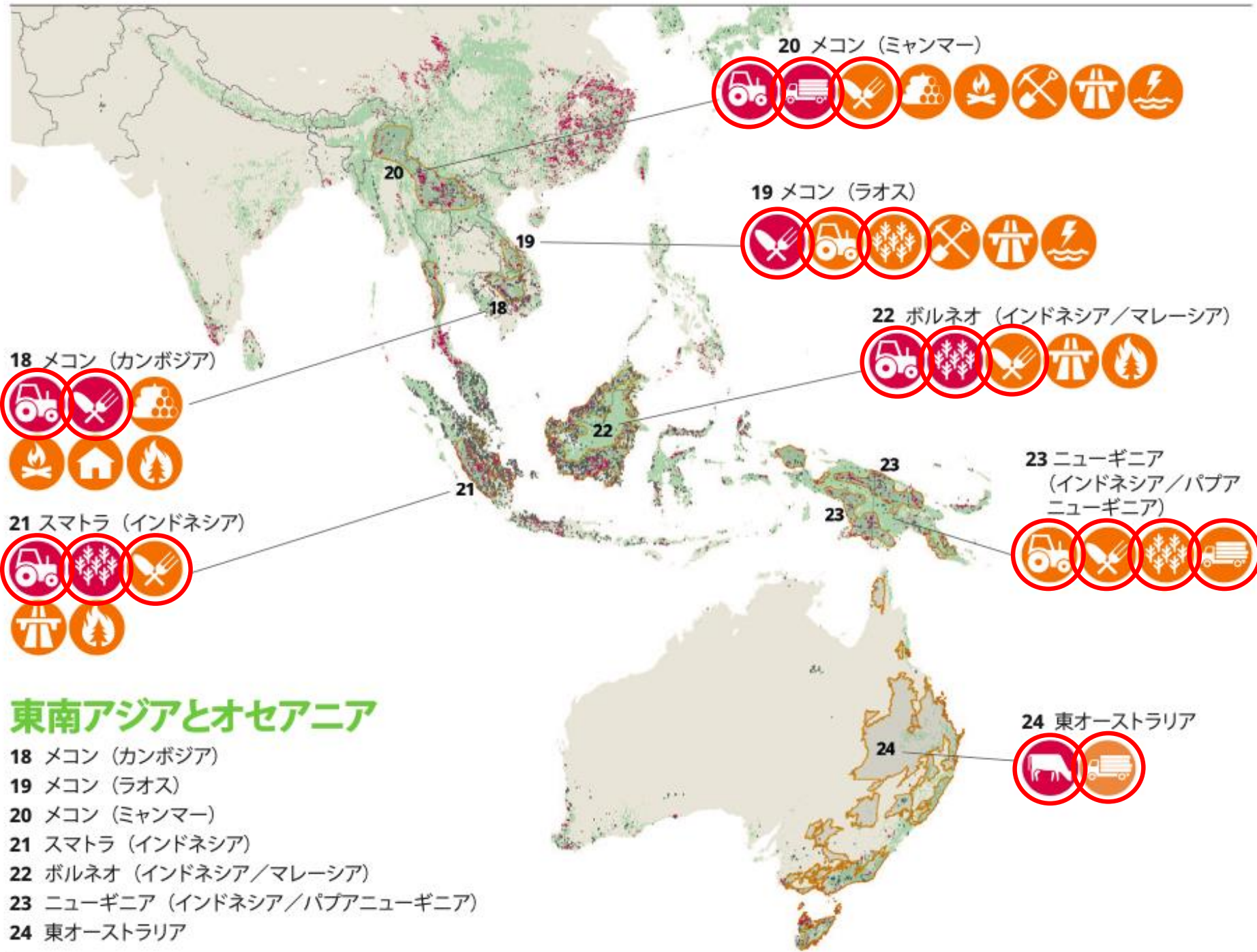
- 1 アマゾン（ブラジル）
- 2 アマゾン（コロンビア）
- 3 アマゾン（ペルー）
- 4 アマゾン（ボリビア）
- 5 アマゾン（ベネズエラ／ガイアナ）
- 6 グランチャコ（パラグアイ／アルゼンチン）
- 7 セラード（ブラジル）
- 8 チョコ・ダリエン（コロンビア／エクアドル）
- 9 マヤ・フォレスト（メキシコ／グアテマラ）

サハラ以南のアフリカ

- 10 西アフリカ（リベリア／コートジボワール／ガーナ）
- 11 中央アフリカ（カメルーン）
- 12 中央アフリカ（ガボン／カメルーン／コンゴ共和国）
- 13 中央アフリカ（コンゴ民主共和国／中央アフリカ共和国）
- 14 中央アフリカ（アンゴラ）
- 15 東アフリカ（ザンビア）
- 16 東アフリカ（モザンビーク）
- 17 東アフリカ（マダガスカル）

東南アジアとオセアニア

- 18 メコン（カンボジア）
- 19 メコン（ラオス）
- 20 メコン（ミャンマー）
- 21 スマトラ（インドネシア）
- 22 ボルネオ（インドネシア／マレーシア）
- 23 ニューギニア（インドネシア／パプアニューギニア）
- 24 東オーストラリア



東南アジアとオセアニア

- 18 メコン (カンボジア)
- 19 メコン (ラオス)
- 20 メコン (ミャンマー)
- 21 スマトラ (インドネシア)
- 22 ボルネオ (インドネシア/マレーシア)
- 23 ニューギニア (インドネシア/パプアニューギニア)
- 24 東オーストラリア

● は主要因
● は主要因に次ぐ要因

- | | |
|--------|--------|
| 牛の放牧 | 薪炭 |
| 大規模農業 | 採掘 |
| 小規模農業 | 輸送インフラ |
| 植林 | 水力発電 |
| 大規模な伐採 | 都市の拡大 |
| 小規模林業 | 火災 |

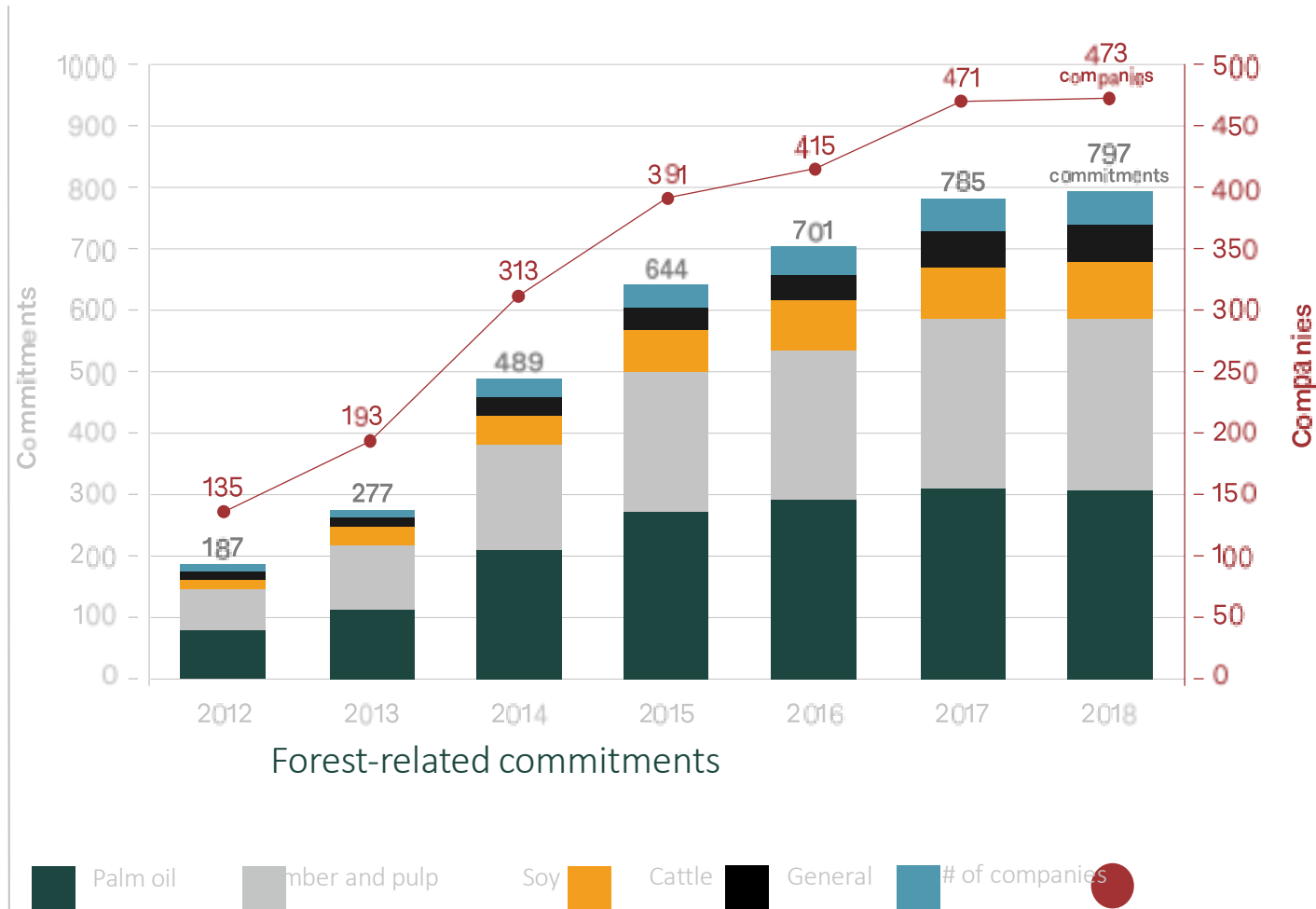
- 森林 (2018 年)
- 2004 年以降の森林減少
- 森林減少のホットスポット
- 森林破壊の最前線

自然の森の価値

- **生物多様性（陸上の生物多様性の8割は森に）**
- 地域住民や先住民の暮らしの基盤
- 水源地（涵養）
- 洪水や土砂くずれなどの災害を防止
- 気候変動を抑制、その影響を緩和するもの
- 動物由来感染症のセーフガード

「サステナブル調達」を目指す木材DDとは 企業の森林に関する方針の発表の状況と森林減少

2012～2018年までの7年間に出了た森林に関する方針の数

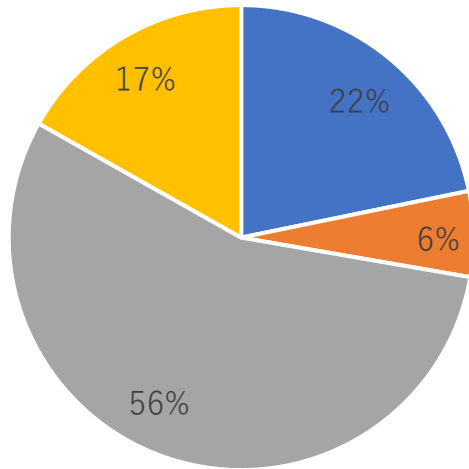


森林リスク・コモ
ディティを扱う&
影響大きい世界
500社のうち
43%は方針
をもっていない
(FOREST500)



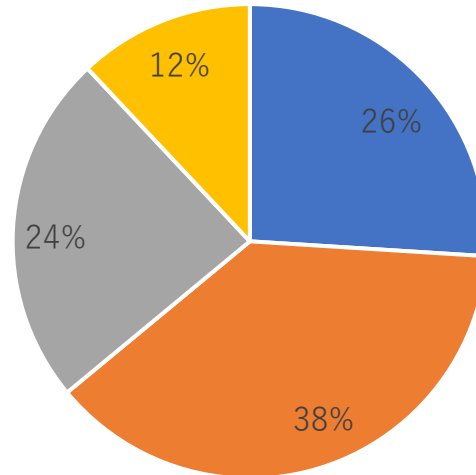
「サステナブル調達」を目指す木材DDとは 本日参加の木材企業の方針策定・運用の状況

木材の調達方針はありますか？



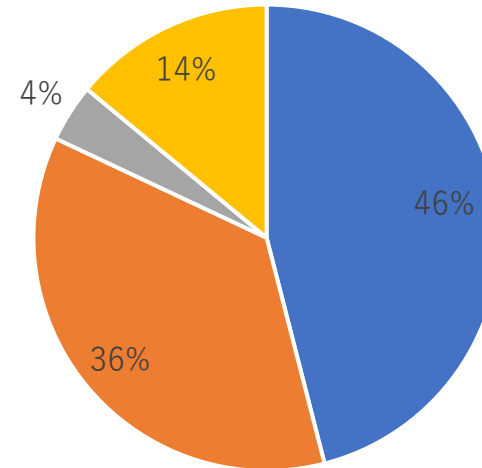
- 1. 検討・準備中
- 2. 策定済みだが公表はしていない
- 3. 公表済み
- 4. その他

調達方針の実施状況を
レビューしていますか？



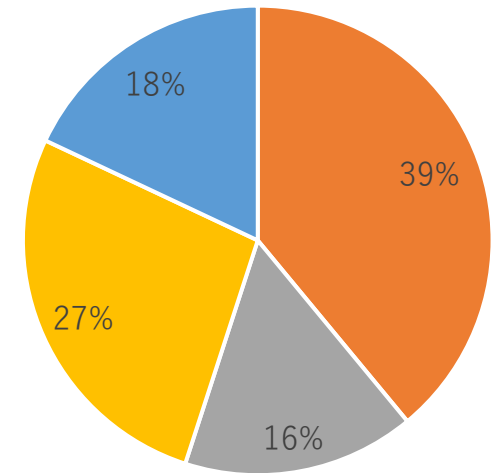
- 検討中
- 定期的に社内ではやっている
- 定期的に社外にも公開
- 不定期で実施

木材デューデリジェンスを
実施していますか？



- している
- していない
- 具体的に何をすればよいのか分からない
- その他

方針を運用する上での
課題は何ですか？

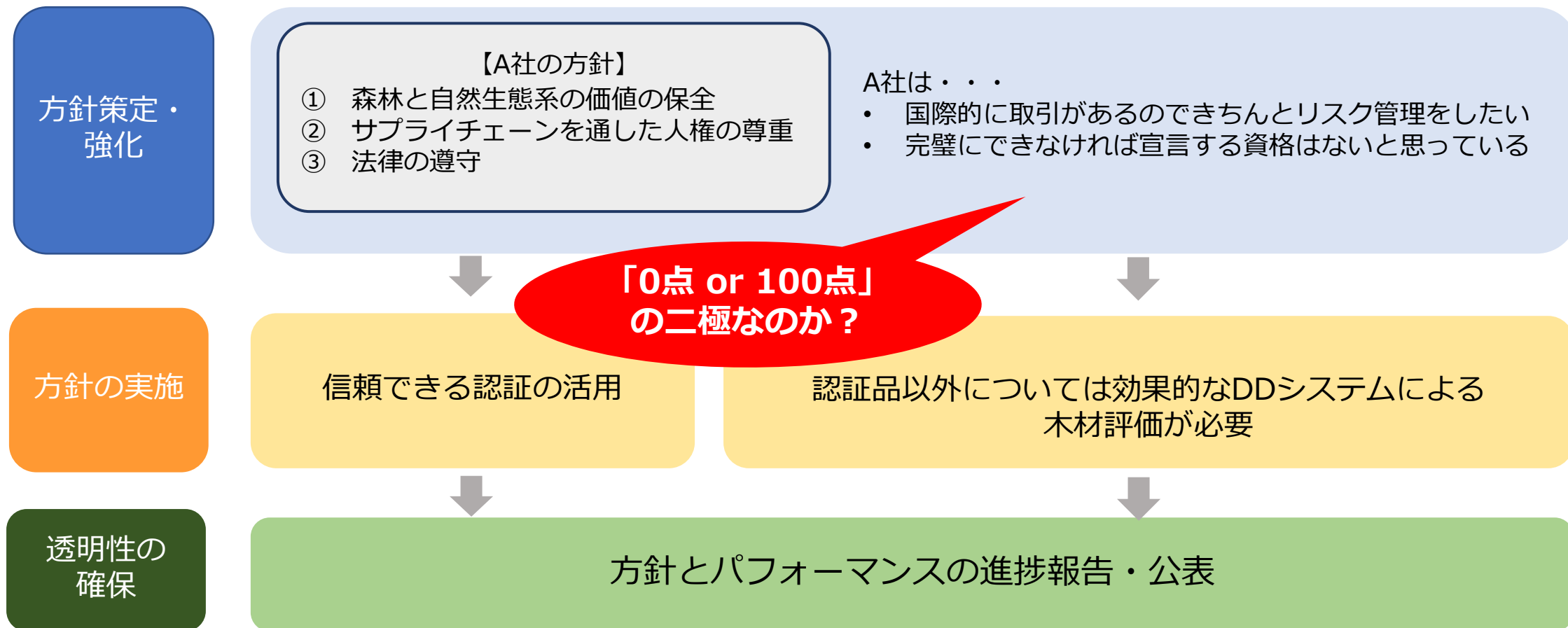


- 社内他部署との調整
- 根拠となる書類が何か分からない
- 取引先の理解が得られない
- その他



「サステナブル調達」を目指す木材DDとは 方針を運用するための木材デューデリジェンス（Due Diligence）

- ・ 方針で掲げた目標を達成するために調達を行う事業者が自ら行う木材評価のこと
- ・ 調達する木材について情報収集を行い、リスクを評価して、リスクがあれば然るべきリスク低減措置
- ・ リスクとは、違法伐採のリスクだけではない。合法性<持続可能性





方針策定・強化

【A社の方針】

- ① 森林と自然生態系の価値の保全
- ② サプライチェーンを通じた人権の尊重
- ③ 法律の遵守

A社は・・・

- ・ CDPフォレストの質問票受け取っていて回答意思あり
- ・ 国際社会で通用するリスク管理をしたい
- ・ 完璧にできなければ宣言する資格はないと思っている

「0点 or 100点」
の二極ではない

林産物チェックリスト

WWFジャパン林産物調達チェックリスト

1 ページ

部署
役職
氏名

トレーサビリティ

1 ページ

持続性に関する12基準

2 ページ

今何点くらい？

どこが足りない？

どこを改善する？

次期の目標は何点？

どの認証を使うとどの
項目が担保できる／
できない？

社内・取引先に何を
依頼する？

透明性の
確保

方針とパフォーマンスの進捗報告・公表

「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

林産物チェックリスト：2008年には第1般、2021年7月には改訂版を公表

トレーサビリティ (評価の20%)

- 森林伐採区画までたどれたら満点
- 地域まで遡れたら5割
- 国すら不明なら0点



+

持続性に関する12の基準 (評価の80%)

=

森林管理

- 1.1 保有権、使用権
- 1.2 森林関連法
- 1.3 経済的継続性

環境面

- 2.1 環境関連法
- 2.2 保護価値の高い森林(環境面) = HCV
- 2.3 環境に配慮した施業
- 2.4 自然林の他用途への転換
- 2.5 遺伝子組み換え

社会面

- 3.1 労働者の権利と安全衛生
- 3.2 先住民の権利
- 3.3 地域社会との関係、地域住民の慣習的な権利
- 3.4 保護価値の高い森林(社会面) = HCV

総合評価 (100点満点)

点数と10段階評価

100	S
90~99	A+
80~89	A
70~79	B+
60~69	B
50~59	C+
40~49	C
30~39	D+
20~29	D
19点以下	E



「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

木材DDに使えるツール：WWF林産物チェックリスト

森林管理

- 1.1 [保有権、使用权](#)
- 1.2 [森林関連法](#)
- 1.3 [経済的継続性](#)

1.1はコンセッションのライセンスや、森林所有者から森林管理を委託される主体がもつ使用权など
1.2は現地の森林法を守っているか
1.3は経営計画や財務諸表などにより判断される
※1.1と1.2は合法性の確認

環境面

- 2.1 [環境関連法](#)
- 2.2 [保護価値の高い森林\(環境面\) = HCV](#)
- 2.3 [環境に配慮した施業](#)
- 2.4 [自然林の他用途への転換](#)
- 2.5 [遺伝子組み換え](#)

2.1は環境関連法を守っているか
2.2は追って詳細説明
2.3は環境影響評価を適切に行っているか
2.4は追って詳細説明
2.5は遺伝子組み換えではないか
※2.1は合法性の確認

社会面

- 3.1 [労働者の権利と安全衛生](#)
- 3.2 [先住民の権利](#)
- 3.3 [地域社会との関係、地域住民の慣習的な権利](#)
- 3.4 [保護価値の高い森林\(社会面\) = HCV](#)

3.1は労働者の権利、ILO基準の順守も想定
3.2－3.4は追って詳細説明
※3.1は合法性の確認



「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

木材DDに使えるツール：WWF林産物チェックリスト（環境面）

- ・ **保護価値の高い森林（環境面）**（2.2）：保護価値が高いってどういうこと？
- ・ **自然林の他用途への転換**（2.4）：他用途とは？転換とは？

2.2 保護価値の高い森林(環境面) = HCV

- ・ 社会的、文化的、環境的に重要な場所を特定し、その生態的、社会的価値を維持し、森林資源利用の持続可能性を保証するためのツール
- ・ 元々FSCから生まれた概念であり、国や地域の法律で保護されているか否かにかかわらない
- ・ 下の項目のいずれかひとつにでもあてはまればHCV

1. 種の多様性	2. 景観レベルでの生態系とモザイク	3. 生態系及び生息域	4. 不可欠な生態系サービス	5. 地域社会のニーズ	6. 文化的価値
保護区 絶滅危惧種	バッファ・ゾーンやコリドー	淡水湿地林のような希少な生態系	土壌流出防止や火災の予防になる	水や食料、生計手段	宗教施設や古墳など

2.4 自然林の他用途への転換

森林減少（Deforestation）とは、

- ① 自然林の農業または森林以外の土地利用への転換
- ② 自然林の植林地への転換
- ③ 深刻かつ継続的な劣化による自然林の消失

※森林以外の保全すべき自然生態系：泥炭地、サバンナ、草地、湿地等

「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

木材DDに使えるツール：WWF林産物チェックリスト（社会面）

- **先住民の権利（3.2）**：何をしたらいいの？原産国では先住民がいないという見解だけど問題になるの？
- **地域社会との関係・慣習的な権利（3.3）**：何をしたらいいの？慣習的な権利とは？
- **保護価値の高い森林（社会面）（3.4）**：2.2と何が違うの？社会的保護価値が高いってどんな場所？

先住民：Indigenous Peoples (IP) や、地域社会・地域住民：Local Community (LC) など、そこに暮らす方々に対する社会的な配慮が求められる



Q. そこに暮らす方々の**意思**はどうやって確認する？

👉 **FPIC: Free Prior Informed Consent**

- ✓ 自由 (Free) で事前 (Prior) の十分な情報に基づいた (Informed) 同意 (Consent)
- ✓ 取り返しのつかないことになる前に行う必要がある
- ✓ 先住民および地域社会の権利、土地、資源、領土、生計、食料確保に影響を与える可能性のある活動を行う前に**FPIC**を得る

Q. その森林がもつ**社会的な高い保護価値**をどうやって評価する？

👉 **HCV: High Conservation Value**

- ✓ 地域にとって宗教施設や文化的に非常に重要な場所





「サステナブル調達」を目指す木材DDとは

木材DDに使えるツール：WWF林産物チェックリストの確認方法

持続性に関する12の基準		FSC – CoC	FSC – CW	文書確認、現地調査、リスク評価、誓約書、調達方針
森林管理	1.1 保有権、使用权	★★★★★	★★★★★	どの項目も以下の方法で確認可能だが配点は異なる ✓ 文書確認 ・ ★★★★★ ✓ 現地調査 ・ ・ ★★★★★ ✓ リスク評価 ・ ★★★★★ ✓ 誓約書 ・ ・ ・ ・ ★★ ✓ 調達方針の有無 ・ ★ 客観性が高く確認に主体性が求められるほど信頼性が高い = 高得点に
	1.2 森林関連法	★★★★★	★★★★★	
	1.3 経済的継続性	★★★★★	要別途確認	
環境面	2.1 環境関連法	★★★★★	★★★★★	
	2.2 保護価値の高い森林(環境面) = HCV	★★★★★	★★★★★	
	2.3 環境に配慮した施業	★★★★★	要別途確認	
	2.4 自然林の他用途への転換	★★★★★	★★★★★	
	2.5 遺伝子組み換え	★★★★★	★★★★★	
社会面	3.1 労働者の権利と安全衛生	★★★★★	★★★★★	
	3.2 先住民の権利	★★★★★	★★★★★	
	3.3 地域社会との関係、地域住民の慣習的な権利	★★★★★	要別途確認	
	3.4 保護価値の高い森林(社会面) = HCV	★★★★★	★★★★★	

Recommendations

1. 方針を策定している時点で、目標設定はされている（方針の中身も大事）
2. 方針で掲げた目標を達成するツールとしてデューデリジェンスは重要。結果も大事だが、それ以上にプロセスが重要。まずは現状把握からステップバイステップで改善を
3. 上記プロセスに、林産物チェックリストが参考になれば幸い。そのままお使いいただくだけでなく、自社の調達方針や目標に合わせてカスタマイズしたり、デューデリジェンスの一例として参考にするなど、利用方法は様々

Thank You Very Much !!